

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
- 制度の利用を申しこむときは、お住まいの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。

※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

シリーズ の ご紹介

このリーフレットは、法律ですめられている定期接種のうち日本脳炎ワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。

そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



#03
DPT-IPV
ワクチンのはなし



#04
BCG
ワクチンのはなし



#05
MR
ワクチンのはなし



#01
Hib
ワクチンのはなし



#02
小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし



#06
日本脳炎
ワクチンのはなし



#07
水痘
ワクチンのはなし

各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンター HPからダウンロードできます。「予防接種 リーフレット」で検索できます。

くわしくは
「予防接種と子どもの健康」
(発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
お子さんと、保護者のみなさまへ

日本脳炎ワクチンのはなし



#06

ノ ワ ク チ ン

きょうの予防接種を安心してうけていただくために

#06 日本脳炎ワクチンのはなし

父親も
ワクチンについて
知っとかない!



- お子さんの体調はよいか、熱があつたり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておく伝えやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。

1

当日は ココをチェック



- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。
- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。

2

ワクチンを 接種するときの ポイント

- 接種直後、30分くらいはすぐ対応してもらえるように、医療機関のなかでお子さんの様子をみてあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさせ、接種個所をきれいに保ってあげましょう。
- おふろには入れてもかまいませんが、接種個所をこすらないでください。



予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にしておきましょう。

3

接種後の 注意

おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆日本脳炎ワクチンを接種した後、熱がでたり、せきや鼻水がでたりします。
 - ◆接種個所が赤くなることがあります。
 - ◆きわめてまれにアナフィラキシー^{きゅうせいさんざいせい}1)、急性散在性脳脊髄炎^{けっしょうぼんげんしょうせいしはんびょう}2)、けいれん、血小板減少性紫斑病^{けつしょうばんげんしょうせいしはんびょう}3)、脳炎などの重い病気にかかることもあるといわれています。
- 1) アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんがでたり呼吸が苦しくなったりします。
2) 急性散在性脳脊髄炎：アレルギーにより脳や脊髄に炎症がおこる病気です。熱がでる、頭が重い、けいれんがおこる、意識がはっきりしないなどの症状がみられます。
3) 血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働きの血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまう。皮膚の下で出血して青あざがでたり、歯ぐきから血がでたりします。

○予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。

日本脳炎ワクチンって？

- ◆日本脳炎は、蚊によって運ばれるウイルスが原因の病気です。多くの場合、症状はでませんが、まれに脳炎になることがあります。脳炎になると、けいれんがでるなど重症になり、2～4割の人が亡くなってしまうといわれています。
- ◆日本脳炎ワクチンを接種することで、体のなかに日本脳炎への抵抗力(免疫)ができます。
- ◆このワクチンは、一般には3歳になってから接種し始め、3回の注射をします。また9歳になってからも1回の注射をします。



○予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。でも予防接種をうけておくと、たとえかかって、その多くは軽くて済みます。